

小・中学校 授業づくりシート		学年	小2	内容項目	善悪の判断，自律，自由と責任
指導観	「発達の段階一覧表」を踏まえた				
	内容項目の理解	実態把握		教材の活用	
	2学年後半となり，道徳性の発達が3学年に近いことから「よいこと」「よくないこと」の判断力も身に付きつつある。「自分でよく考えて決める」という「自律」に重点を置きたい。	物事を自分で判断できるようになってきた反面，「少しくらいなら」と考えてしまうこともある。自分でよく考えて，「よいこと」をしっかりと判断できるようにさせたい。		教材は「ぼんたとかんた」を活用する。2学年後半であることから，少しずつ自律的な判断を身に付けさせたい。「少しくらいなら」と考える「かんた」に共感できると考える。「かんた」が自分で考えて決めた場面を中心に扱いたい。	
ねらい	よく考えて自分の行動を決めた「かんた」に共感させる活動を通して，自分で考えて「よい」と思ったことを行動しようとする道徳的判断力を育てる。				
手立て	「かんた」の心情に寄り添わせ，自分で考えて「よい」と思ったことを行動する大切さに気付かせるために，場面ごとに発問する。				
指導の手立ての具体（想定した児童生徒の反応から目指す姿までの過程）	「少しくらいなら」と考えてしまう「かんた」の気持ちに寄り添う児童の反応（場面ごとの発問）				
	 「かんた」はどうしてぼんたの言うことを聞かずにさっさと裏山に入ってしまったのかな？ 早く裏山に行きたいから。 遊びたい気持ちが強いから。せっかく見つけた秘密基地だから。 ぼんたに早く見せてあげたいから。 				
	「裏山に行かない」と決めた「かんた」の思いを考える児童の反応（場面ごとの発問）				
	「自分で考えてきめた」と言っているけど，どんなことを考えたのだろう。 やっぱり行かない方がいいのかな。 ぼんたが行かないならやめようかな。 今までは大丈夫だったけど，本当は危ないことがあるのかもしれないと思った。 いいのかなって思いながら遊んだら，楽しくないって思った。 ぼんたと楽しく遊びたいなって思った。				
指導の手立ての具体（想定した児童生徒の反応から目指す姿までの過程）	本時で目指す児童の姿				
	これからの生活で，「かんた」のようにできそうですか。 できそう。よく考えて，だめだなって思ったことはしないようにする。 多分できるよ。友達に誘われても，だめなことだったらちゃんとだめだよって断りたいし，教えてあげたいな。 今は難しいかも。でも，かんたみたいに，自分でちゃんと考えて決めたいな。				

第2学年道徳科学習指導案

指導月日 令和〇年〇月〇日

授業者 〇〇 〇〇

- 1 主題名 自分でよく考えて 「A-(1) 善悪の判断, 自律, 自由と責任」

教材名 「ぼんたとかんた」(文部科学省 私たちの道徳 1・2年)

2 指導観

(1) 内容項目の理解

本主題は、小学校学習指導要領(平成29年告示)の次の内容を受けて設定されたものである。

第3章 特別の教科 道徳 第2 内容 「善悪の判断, 自律, 自由と責任」

〔第1学年及び第2学年〕

よいことと悪いことの区別をし, よいと思うことを進んで行うこと。

小学校学習指導要領解説 特別の教科 道徳編で、「人として行ってよいこと, 社会通念として行ってはならないことをしっかりと区別したり, 判断したりする力は, 児童が幼い頃から徹底して身に付けていくべき」とされているように, よいことと悪いことを正しく区別できる判断力を低学年段階の児童に対してしっかりと養っていくことが大切である。

2学年の後半ということもあり, 徐々に「してもよいこと」や「してはいけないこと」に対する判断力も身に付きつつある。しかし, そういう中で「しない方がいい」と分かっているにもかかわらず「少しくらいならよいだろう」などと考えて, ついしてしまうことも増えてくる。そこで, 何が「よいこと」なのか自分で考えて判断し, 行動する大切さに気付かせることが必要である。

(2) 実態把握

低学年の児童は「悪いことをすると叱られるからしてはいけない」「褒められるからよいことをする」と他律的な判断をする時期である。しかし, 2学年の後半ということもあり, 学校生活などを通してよいことや悪いことの区別は身に付きつつある。自分で物事を判断するようになってきたからこそ, 「少しくらいなら」と考えてしまう児童もいる。「するべきか」「しないべきか」物事の判断で迷った時に「よい」と思ったことを自分で考えて判断し, 行動する大切さに気付かせたい。

(3) 教材の活用

本教材は, 入ってはいけないとされている裏山で秘密基地を見つけた「かんた」が, 友達のぼんたに「二人で行こう」と誘うが, 自分で考え直して「行かない」と決めるという内容である。

「少しくらいなら」「平気だから」という気持ちから, 裏山に行こうとする「かんた」の心情に, 判断力が付いてきたこの時期の児童は共感できると考える。そこで, 「かんた」の心情を場面ごとに考えさせていく。裏山に「行きたい」「入って遊びたい」という「かんた」の心情や, 「自分で考えて決めた」場面でのどのようなことを考えて「行かない」と決めたのかを捉えさせていく。その上で, 「よい」と思うことを自分で考えて判断できた「かんた」のすばらしさを児童に気付かせる。さらに, 「かんた」と自身の生活を重ね合わせて考えさせることで, 「自分でよく考えて行動すること」を自分との関わりで捉えさせていきたい。

以上のことから, 「かんた」を中心に考えさせていくことで, 「よいこと」とは何かを自分で考え, 行動していこうという思いを持たせられると考えた。判断力が付いてくるこの時期に, 自分でよく考えて「よい」と思ったことを行動する大切さに気付かせることができる, 2学年にふさわしい教材である。

3 本時の指導にあたって

(1) ねらい

よく考えて自分の行動を決めた「かんた」に共感させる活動を通して、自分で考えて「よい」と思ったことを行動しようとする道徳的判断力を育てる。

(2) 手立て＜発問構成の工夫＞（授業づくりシート参照）

児童の実態から、「しない方がよい」と分かっているにもかかわらず「少しくらいなら」と考えてしまう「かんた」の心情に共感できると考えた。また、「かんた」がどのようなことを考えて「裏山に行かない」と自分で決めたのかを考えさせることで、自分で考えて「よい」と思ったことをする大切さに気付かせていきたい。そこで、「かんた」の心情に寄り添わせていくために場面ごとに発問する。

(3) 指導過程（別ページ）

(4) 評価

＜児童の評価＞

○「かんた」が裏山に行かないと決めた判断の理由について、友達の話の聞きながら考えることができたか。（多面的・多角的）

○自分でよく考えて行動した「かんた」と自分の生活を重ね合わせ、「自分で考えて『よい』と思っただけでいいかな」ということを考えることができたか。（自分との関わり）

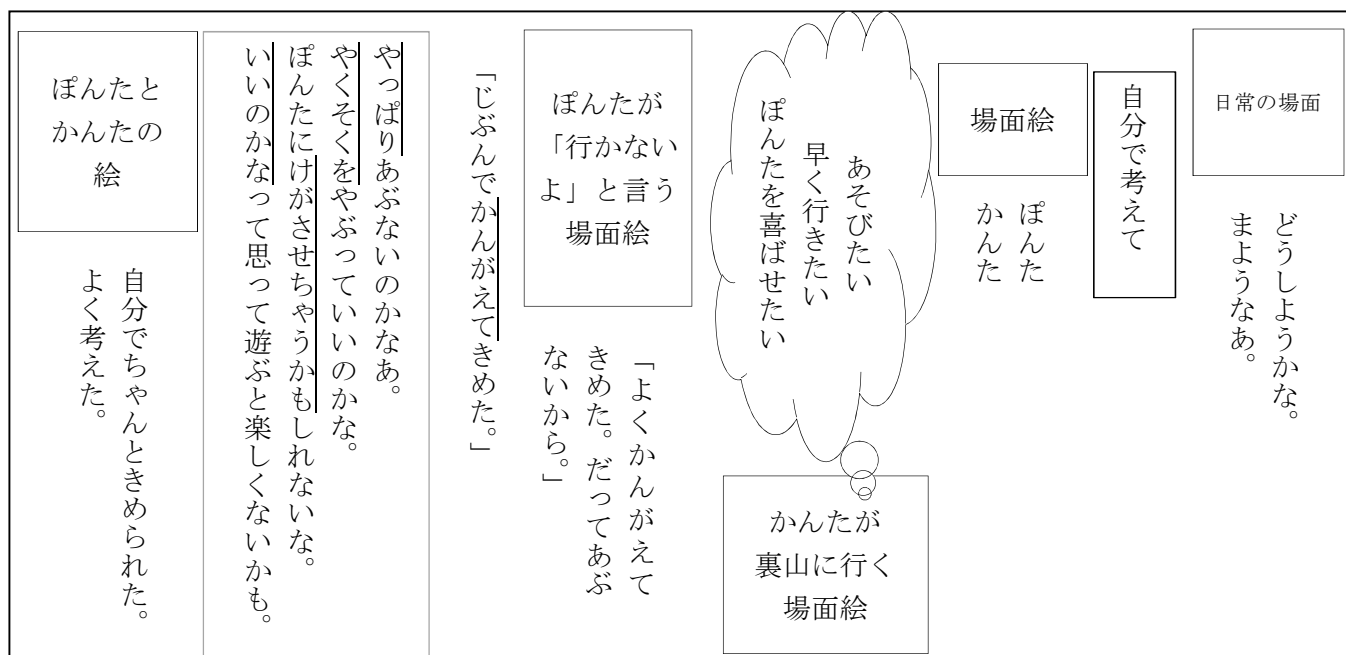
＜指導方法の工夫に対する教師の評価＞

○自分で考えて「よい」と思ったことをする大切さを考えさせるために、場面ごとに発問したことは、2学年の後半の時期の児童にふさわしい手立てであったか。

(5) 準備物

教師：教科書，ワークシート，提示絵

(6) 板書計画



指導過程

段階	学習活動 ○基本発問 ◎中心発問	予想される児童の反応	指導上の留意点 ○評価 【 】評価方法
導入 5分	1 学習への問題意識を持つ。 ○こんな場面ではどうするかな。 じぶんでかんがえて	・迷うなあ。 ・どうしよう。 ・私だったら…。	・どう行動するか迷うような日常の場면을提示して、「みんなだったらどうするかな」と投げ掛け、「自分でよく考えて決めること」に対する問題意識を持たせる。
展開 35分	2 教材を読んで、自分で考えて「よい」と思ったことを行動する大切さを考える。 ○どうしてぼんたの言うことを聞かずに、さっさと裏山に入って行ってしまったのかな。 ◎かんたは、「自分で考えて決めた」と言っているけれど、どんなことを考えたのだろう。 ○「かんた」のどんなところがすごいと思うかな。	・早く裏山に行きたいから。 ・だめだなんて分かっているけど、危なくないって分かっているから。 ・遊びたい気持ちが強いから。せっかく見つけた秘密基地だから。 ・ぼんたに早く見せてあげたいから。 ・やっぱり行かない方がいいのかな。 ・ぼんたが行かないならやめようかな。 ・今までは大丈夫だったけど、本当に危ないことがあるのかもしれないなと考え直した。 ・いいのかなって思いながら遊んだら、楽しくないって思ったから。 ・ぼんたと楽しく遊びたいなって思った。 ・自分でよく考えて、やっぱり行かないって決めたこと。 ・ちゃんと考えて、行かない方がいいことだなんて	<手立ての具体> ・「 <u>かんた</u> 」の心情に寄り添わせるために発問構成を工夫する。 ・読み聞かせの前に、「かんた」の気持ちを考えながら聞くように指示をする。 ・「ぼんた」に「だめだよ」と言われていることを確かめた後で、発問を投げ掛ける。 ・この場面での「かんた」にとっては、「楽しいから」「ぼんたと一緒にいきたいから」が判断の理由になっていることを押さえさせる。 ・中心発問を投げ掛ける前に、「裏山に行かない」ということを「かんた」は決めた、ということを押さえさせる。 ・「ぼんたに言われたから」という他律的な考えに偏った場合は、この前の場面で一度「ぼんた」に「だめだよ」と言われていることを確かめ、「他にも考えたことがあるかもれないね」という投げ掛けをする。 ○多面的・多角的 【発言、様子】 ・「自分でちゃんと考えたところ」に考えが偏った場合、「ちゃんと考えたからどうすることができたのかな」と問い返しをすることにより、本時のねらいである、自

	○これからの生活で、「かんだ」のようにできそうですか。	決めたこと。 ・行きたい気持ちもあったけど、よくないのかなって考え直したところ。 ・できそう。しっかり考えて、だめだなって思ったことはしない。 ・できると思う。友達に誘われても、だめなことだったらちゃんとだめだよって断りたいし、教えてあげたいな。 ・今は難しいかも。でも、かんだみたいによく考えて、「よい」ことをしたいな。	分で「よい」と思ったことができたところに気付かせていく。 ・「かんだ」と自身の生活を重ね合わせ、自分との関わりで「自分で考えて「よい」と思うことを行動する」ことを捉えさせていく。 ・ワークシートに記述させ、ペアで交流させた後、全体で共有していく。 ・「できそうにない」という児童に対しては、自分をしっかり振り返ることができていることを認めた上で、今後どうしていきたいか、を問い掛けていく。 ○自分との関わり 【ワークシート、発言、ペア学習での発言】
終 末 5 分	3 本時の学習を振り返る。 ○今日の学習でどんなことを考えましたか。	・どっちにしようかな、とか悩んだときには、ちゃんと考えて「よい」と思う方を選びたい。	・数名に発表させ、全体で共有しながら、今後の生活への思いを持たせる。

「かんだ」のように、自分でよく考えて決めることが

できそう

むずかしい



どんなとき？